

WilComm/400 Ver.8.03 & WilComm 5

## Training Manual lesson 2

### ウィルコム of 起動と停止

Manual No - TRN062

WilComm V8.03 & 5

© Copyright 2017

株式会社フェアディンカム

## 目次

1.ホストのウィルコム起動方法.....	4
2.ホストのウィルコム停止方法.....	11
3.PC Server のウィルコム起動と停止 .....	16
PC Server のウィルコム起動方法.....	21
PC Server のウィルコム停止方法.....	24

## 改訂履歴

日にち	改訂内容
2019/10/16	全体的なレイアウト変更
2021/5/21	コンパイル時の注意点を追記
2023/10/17	SNDMSG コマンドでのメッセージ送信先を*SYSOPR に変更

不明点等がございましたら下記連絡先までお気軽にお問い合わせください。

**株式会社フェアディンカム**

(WilComm サポートデスク)

メール [wilcomm@fairdinkum.co.jp](mailto:wilcomm@fairdinkum.co.jp)

電話 03-5809-3727

本解説書は、ウィルコム「WilComm/400 Ver8.03 & PC WilComm 5」を初めてお使いになるシステム管理者向けトレーニング・マニュアルです。

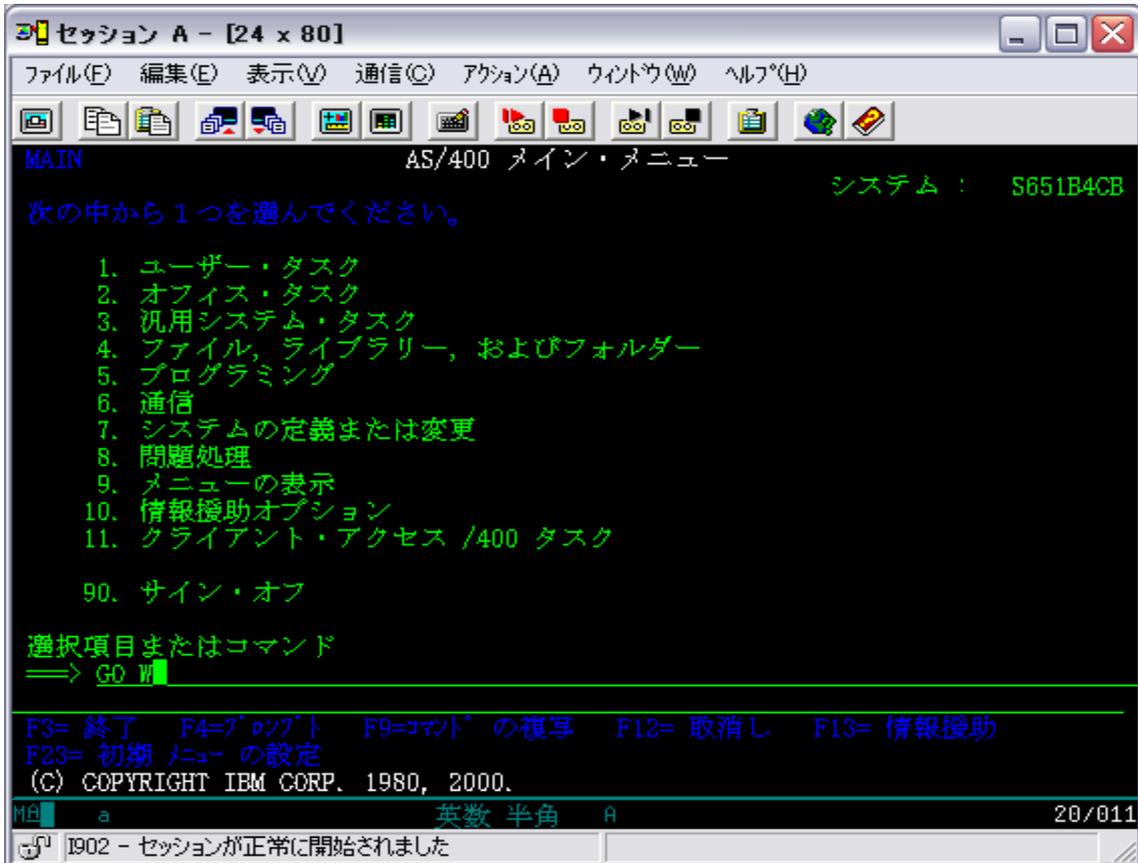
Lesson-2 では、ホスト(**IBM i, iSeries, AS/400**)及び PC サーバーにおけるウィルコムの起動方法と停止方法について解説しています。

(目的)

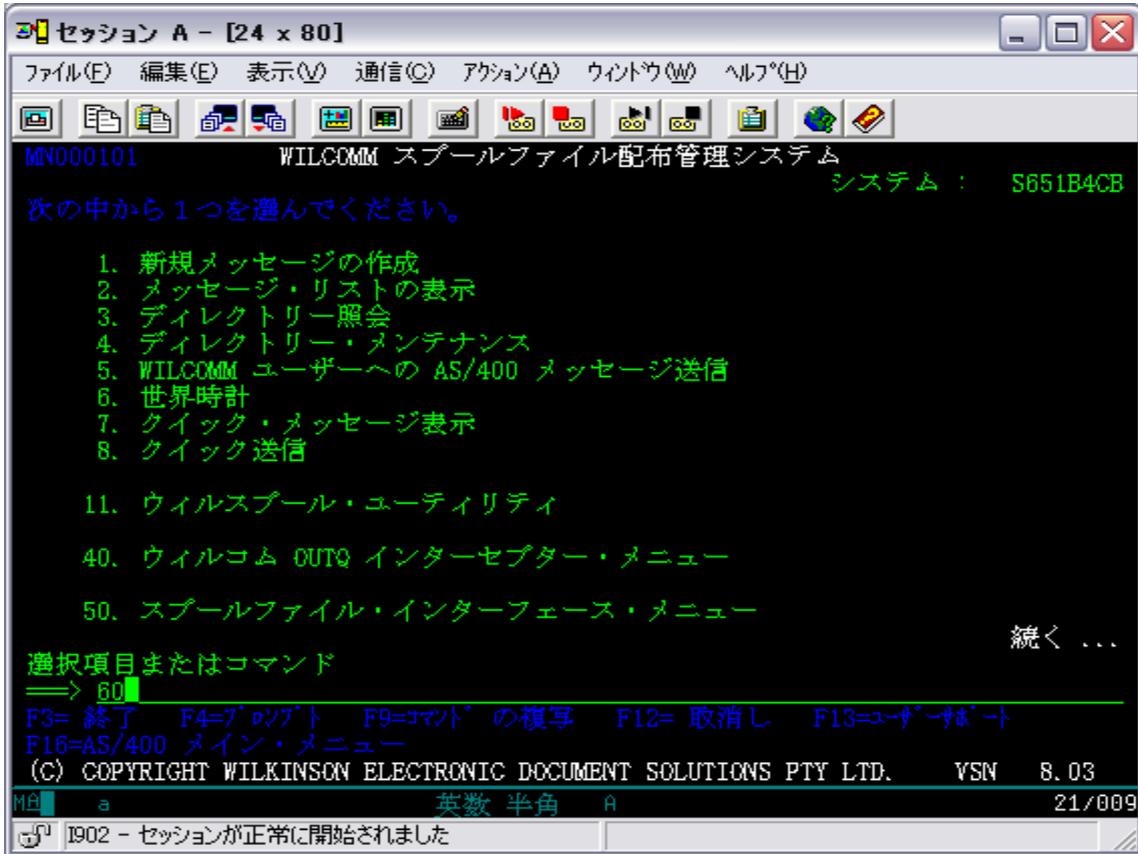
1. ホスト側ウィルコムの起動／停止ができるようになる。
2. PC サーバー側ウィルコムの起動条件を理解する。
3. PC サーバー側ウィルコムの起動／停止ができるようになる。

## 1.ホストのウィルコム起動方法

QSECOFR でサインオンして、GO W を実行します。



WilComm メインメニューから[60 : WILCOMM ADMINISTRATION MENU] を選択します。  
 ([60]は次ページキーで表示されます。)



[18 : モニター開始] を選択します。



ウィルコム の起動を自動化する場合は、システム値 : **QSTRUPPGM** で設定されているプログラムの**最終部分**に以下の行を追加してください。

```
CALL WILCOMMCHG/WILSTART
```

```
MONMSG CPF0000
```

WILSTART が WILCOMMCHG に存在していない場合は、ライブラリー WILCOMM にあるソースファイル WILSAMPLES のメンバー WILSTART をコンパイルして、ライブラリー WILCOMMCHG にプログラムを作成してください。

ウィルコム自動スタート・プログラム・コーディング・サンプル(WILSTART)

```

PGM
DCL      VAR(&ENROLLED) TYPE(*LGL)
DCL      VAR(&UMSGQ) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL      VAR(&UMSGQL) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL      VAR(&JOB) TYPE(*CHAR) LEN(10)

/*
RTVJOBA  JOB(&JOB)
/*

CHGSYSLIBL LIB(WILQ2962)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
ADDLIBLE LIB(WILCOMMD)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
ADDLIBLE LIB(WILCOMM)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
ADDLIBLE LIB(QTEMP)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
CALL     PGM(WPDBCSIC)
CALL     PGM(WP36) PARM(&ENROLLED &UMSGQ &UMSGQL)
/*

IF      COND(&ENROLLED) THEN(DO)
  SNDMSG  MSG('YOU ARE NOT ENROLLED IN WILCOMM !') +
          TOMSGQ(*SYSOPR)
  GOTO    CMDLBL(RESET)
  ENDDO
/*

CALL     PGM(WP014CQSTR)      /*FOR QSTRUP */
/*****CALL     PGM(WP014CBSTR)      OTHER BATCH*/
/*

RESET:  CHGSYSLIBL LIB(WILQ2962) OPTION(*REMOVE)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
RMVLIBLE LIB(WILCOMMD)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
RMVLIBLE LIB(WILCOMM)

```

```

MONMSG      MSGID(CPF0000)
/*
RETURN
ENDPGM
*/

```

スタートアップ・プログラムに上記の通りコーディングした CL プログラムを組み込んでウィルコムを起動した場合は、メニューから 18 を実行する必要がなくなります。

上記例は、ウィルコムを日本語環境で使用する場合の例です。英語環境でご使用になる場合は、赤字部分のライブラリー指定を「**WILQ2938**」に修正してからコンパイルしてください。

ホストの IPL 時に起動します「QSTRUP」プログラム内で実行することができます。その場合、ウィルコムは TCP/IP の各種機能が開始されていることが前提となりますので、「QSTRUP」プログラムの最終ステップに組み込むようにしてください。

「QSTRUP」プログラム以外のバッチ・プログラムから呼び出す場合は、「**WP014CQSTR**」の部分を「**WP014CBSTR**」に変更してプログラムを作成してください。「QSTRUP」プログラム以外のバッチ・プログラムとは、夜間のバックアップ・プログラム等でウィルコムを一旦停止した後、再度自動起動したいような場合です。

#### <<QSTRUP で実行する際の注意点>>

PGM: **WILSTART** では、まず最初にプログラムの実行ユーザーのチェックが行われます。PGM: **WILSTART** を実行するユーザーが、ウィルコムに登録されたユーザーであるか否かがチェックされます。認可のないユーザーが実行している場合は、前ページの  部分のロジックが処理され、ウィルコムはスタートされずに PGM: **WILSTART** は終了してしまいます。QSTRUP における実行ユーザーは、「QPGMR」ですので、QSTRUP で PGM: **WILSTART** を実行する場合は、ウィルコムにユーザー「QPGMR」が登録されている必要があります。ウィルコムにユーザー「QPGMR」を登録したくない場合は、ウィルコムに既登録のユーザーを指定して QSTRUP から PGM: **WILSTART** をサブミットするようにしてください。(SBMJOB コマンドは、サブミットするジョブの実行ユーザーをパラメータで指定できます) ウィルコムのユーザー登録につきましては、「Lesson-3」を参照してください。

起動状況の確認

アプリケーション・コントロール・メニューで

[19 : モニター活動状況照会 (SUBSYSTEM WILCOMM) ] を実行します。



ウィルコムのサブシステム照会画面が表示されます。



ウィルコムのすべてのジョブは、サブシステム : WILCOMM 配下で起動しています。  
お客様のウィルコム環境によってジョブ表示内容は異なります。

## 2.ホストのウィルコム停止方法

アプリケーション・コントロール・メニューで、[20 : モニター停止 (SUBSYSTEM WILCOMM) ] を実行します。



オプション = \*NORMAL、遅延時間 = \*DEFAULT で実行してください。



OPTION=\*NORMAL は、その時点で処理中のジョブが正常終了するのをチェックしながら停止処理を行います。

ホストのバックアップや IPL 時等にウィルコムを自動停止する場合は、以下の点に注意してください。

1. バックアップや IPL の時間はウィルコムを使用していない時間帯を選んでください。
2. ウィルコムを自動停止する場合は、以下のコマンドを実行してください。

```
CALL WILCOMMCHG/WILQUIT
MONMSG CPF0000
```

WILQUIT が WILCOMMCHG に存在していない場合は、ライブラリー-WILCOMMにあるソースファイル WILSAMPLES のメンバー-WILQUIT をコンパイルして、ライブラリー-WILCOMMCHG にプログラムを作成してください。

**※コンパイルする際は、ライブラリーリストにライブラリー-WILCOMM を追加してください。**

ウィルコムは**午前 0 時**に不要データを削除するページ処理が自動的に起動します。この処理が実行中に PWRDWNSYS が実行されることは好ましくありません。最悪の場合データベースの損傷に至る場合があります。またページ処理にかかる時間はお客様のデータ量・マシン性能等によって異なりますので、午前 0 時頃に PWRDWNSYS を実行される場合は、**午前 0 時前**にプログラム(WILQUIT)を実行してウィルコムを停止しておいていただくか、次のページに書かれている方法で、ページ処理を実行する時刻を午前 0 時以降に変更してください。

### **ウィルコム・ページ処理の遅延方法**

何らかの理由で午前 0 時に起動するページ処理を遅延させる必要がある場合は、コマンドラインから以下のコマンドを実行してください。

```
CRTDTAARA DTAARA(WILCOMMCHG/WPPRGTAB) TYPE(*CHAR) LEN(80)  
VALUE('DLYJOB RSMTIME(999999)')
```

RSMTIME の値はページ処理を実行する時間を設定してください。例えば 120000 とするとウィルコムのページ処理は午後 12 時に起動するようになります。**ウィルコムのページ処理は午前 0 時の実行時にこのデータエリアを参照して、そこに設定されている値のコマンドを先に実行します。**

(注) ウィルコムが新規インストールされた時点では、データエリア：**WILCOMMCHG / WPPRGTAB** は存在していません。以下の要領でデータエリアを作成してください。

```
CRTDTAARA DTAARA(WILCOMMCHG/WPPRGTAB) TYPE(*CHAR) LEN(80)
```

ウィルコム自動終了・プログラム・コーディング・サンプル(WILQUIT)

```

PGM
DCL      VAR(&ENROLLED) TYPE(*LGL)
DCL      VAR(&UMSGQ) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL      VAR(&UMSGQL) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL      VAR(&JOB) TYPE(*CHAR) LEN(10)

/*
RTVJOBA  JOB(&JOB)
*/

/*
CHGSYSLIBL LIB(WILQ2962)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
ADDLIB   LIB(WILCOMMD)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
ADDLIB   LIB(WILCOMM)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
ADDLIB   LIB(QTEMP)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
CALL     PGM(WPDBCSIC)
CALL     PGM(WP36) PARM(&ENROLLED &UMSGQ
&UMSGQL)
*/

IF      COND(&ENROLLED) THEN(DO)
  SNDMSG  MSG('YOU ARE NOT ENROLLED IN WILCOMM !') +
          TOMSGQ(*SYSOPR)
GOTO    CMDLBL(RESET)
ENDDO
*/

WCSHTDWN  TYPE(*NORMAL)

/*
RESET:    CHGSYSLIBL LIB(WILQ2962) OPTION(*REMOVE)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
RMVLIBLE LIB(WILCOMMD)
MONMSG   MSGID(CPF0000)
RMVLIBLE LIB(WILCOMM)

```

```
MONMSG      MSGID(CPF0000)
/*
RETURN
ENDPGM
*/
```

上記の通りコーディングした CL プログラムを組み込んでウィルコムを終了した場合は、メニューから「20: モニター停止」を実行する必要がなくなります。上記例は、ウィルコムを日本語環境で使用する場合の例です。英語環境でご使用になる場合は、赤字部分のライブラリー指定を「WILQ2938」に修正してからコンパイルしてください。

**WCSHTDWN** は、ウィルコムのコマンドです。従いまして、コンパイルする際にはライブラリー・リストにライブラリー : WILCOMM を追加してください。

#### <<実行時の注意>>

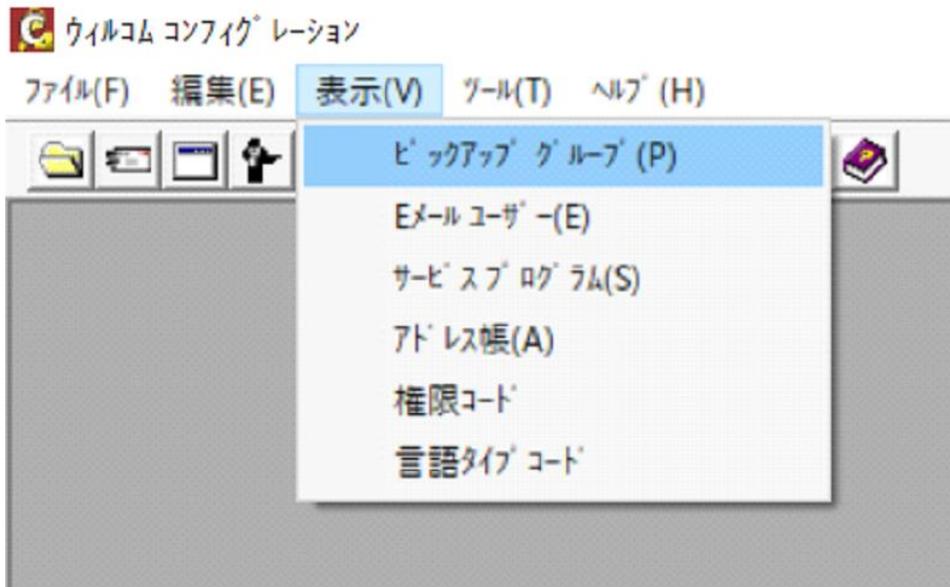
PGM: **WILQUIT** では、まず最初にプログラムの実行ユーザーのチェックが行われます。PGM: **WILQUIT** を実行するユーザーが、ウィルコムに登録されたユーザーであるか否かがチェックされます。認可のないユーザーが実行している場合は、前ページの  部分のロジックが処理され、ウィルコムは停止されずに PGM: **WILQUIT** は終了してしまいます。実行ユーザーをウィルコムに登録するか、或いは既登録ユーザーで実行するようにしてください。

ウィルコムのユーザー登録につきましては、「Lesson-3」を参照してください。

### 3.PC Server のウィルコム起動と停止

PC Server のウィルコムを起動する前にネットワーク・ドライブが接続されていることを確認してください。このネットワーク・ドライブは、ホストの **/WILKINSON/SI** フォルダ(共有名:wilkinson)に接続されています。ドライブ名(ここでの例は I ドライブ)は、WilComm Config での設定によって決まっております。ドライブ名が不明な場合は、以下の要領で WilComm Config を起動して確認してください。

デスクトップにある WilComm フォルダを開き、WilComm Config  を起動します。

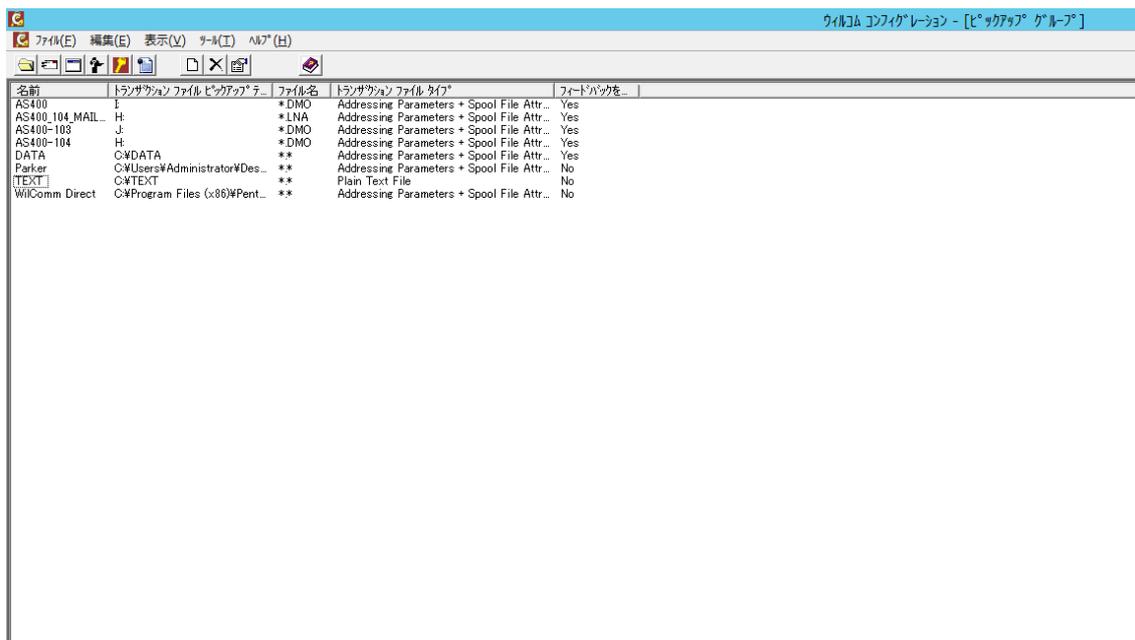


ツールバーの「表示」→「ピックアップグループ」を選択します。

#### ピックアップグループとは・・・

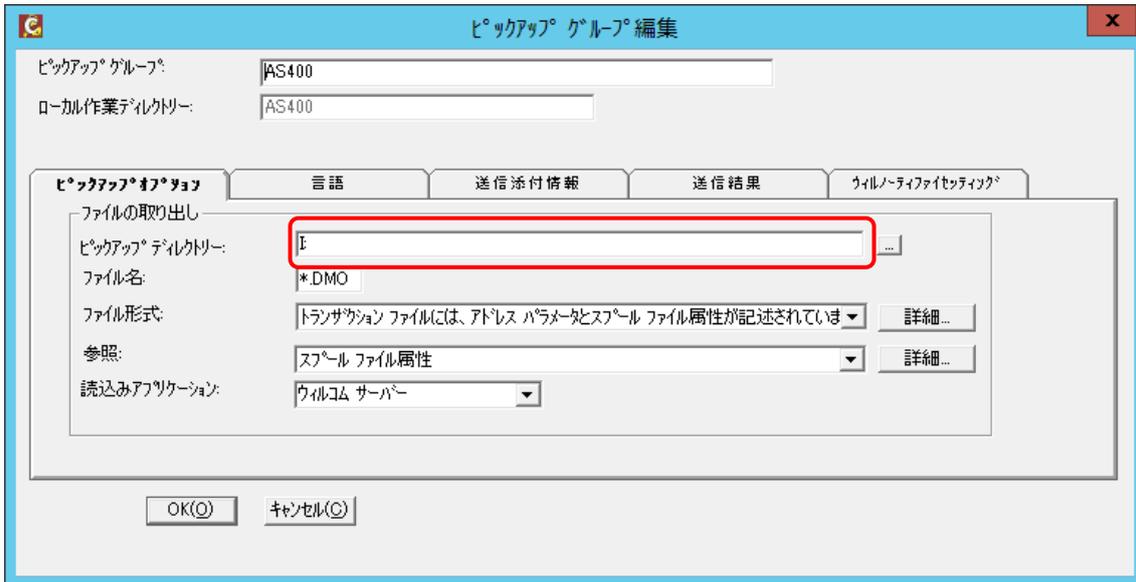
PC 側のウィルコム・モジュールが、何処のフォルダから処理対象データを受け取るかを指定する定義です。ホスト側で処理されたスプールデータを、何処から受け取るかを定義します。

## Training Manual Lesson-2 ウィルコム の起動と停止



ホストからのデータ・ピックアップ定義をダブルクリックします。

## 「ピックアップ オプション」タブ



PC Server の WilComm は、ホストからのデータを上記ドライブから受け取ります。  
 ここでのドライブ名とネットワーク・ドライブ名は一致している必要があります。

## 「言語」タブ



### 「送信添付情報」タブ

The screenshot shows the 'Pickup Group Edit' dialog box with the 'Attachment Information' tab selected. The 'Pickup Group' and 'Local Work Directory' fields are both set to 'AS400'. The 'Attachment Information' section is titled 'Host to Mail Attachment File' and contains a 'Pickup Attachment Directory' field with the value '[#ATTACH]'. The 'OK' and 'Cancel' buttons are at the bottom.

ピックアップ グループ編集

ピックアップ グループ: AS400

ローカル作業ディレクトリ: AS400

ピックアップ オプション | 言語 | **送信添付情報** | 送信結果 | ウィルノティファイセプション

ホストからメールに添付されるファイル

ピックアップ ディレクトリ: [#ATTACH]

OK(O) キャンセル(C)

### 「送信結果」タブ

The screenshot shows the 'Pickup Group Edit' dialog box with the 'Delivery Results' tab selected. The 'Pickup Group' and 'Local Work Directory' fields are both set to 'AS400'. The 'Delivery Results' section is titled 'Host Return Execution Results' and has a checked checkbox 'Execute the following directory, create execution result file'. The 'Pickup Results Directory' field contains '[#RESULTS]'. The 'File Extension' field contains 'DMO'. The 'OK' and 'Cancel' buttons are at the bottom.

ピックアップ グループ編集

ピックアップ グループ: AS400

ローカル作業ディレクトリ: AS400

ピックアップ オプション | 言語 | 送信添付情報 | **送信結果** | ウィルノティファイセプション

ホストへ返す実行結果

以下のディレクトリへ、実行結果のファイルを作成

ピックアップ ディレクトリ: [#RESULTS]

ファイル拡張子: DMO

OK(O) キャンセル(C)

## 「ウィルノーティファイ セットアップ」タブ

ウィルコム サービス用 送信メールの通知

ウィルプリント  失敗のみ  すべて  無し      WillMail:  失敗のみ  すべて  無し

ウィルファクス  失敗のみ  すべて  無し      WillFile:  失敗のみ  すべて  無し

メール通知用 メールアドレス

メールアドレスの解決方法: 常に通知メッセージを定義されたメールアドレスへ送信 [詳細...]

OK(O) キャンセル(O)

Windows 環境から ホストの共有フォルダーをネットワーク・ドライブとして割当てするためには、ホストのオペレーティングシステムが提供するネットサーバーサービスを使用いたします。( \*ネットサーバーについてはオペレーティングシステムのマニュアルをご参照ください。)

(ネットワーク・ドライブが接続されない場合)

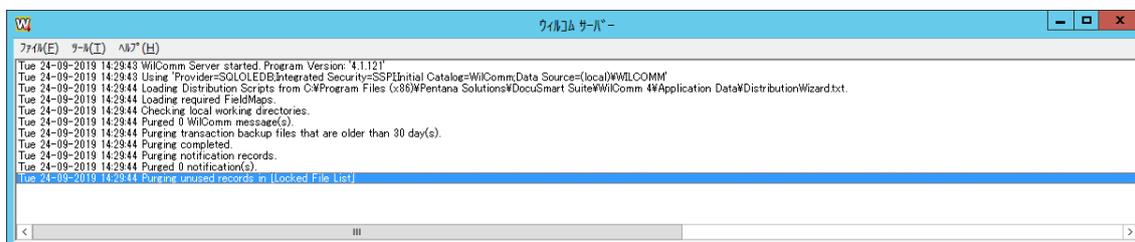
ホストのコマンド : **STRTCPSVR SERVER(\*NETSVR)** によりネットサーバーを起動します。

**それでも接続されない場合は、ホストのネットワーク設定が正しくないか、ホストの障害などが考えられますので、IBM もしくは IBM 特約店にご相談ください。**

ネットサーバーは、ホスト上のフォルダーを共有フォルダーとして Windows ネットワークに対して公開するサービスです。

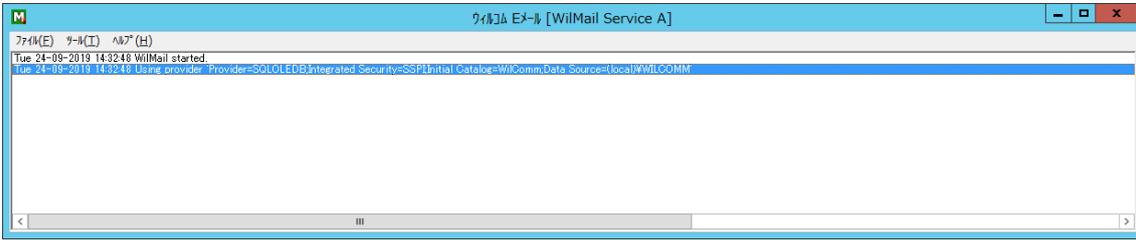
## PC Server のウィルコム起動方法

デスクトップにある WilComm フォルダを開き、WilComm Server  を起動します。

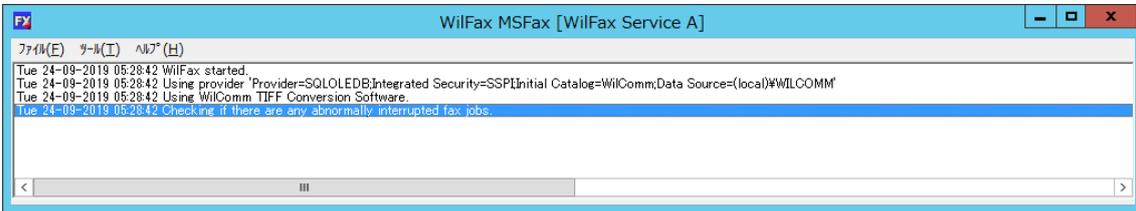


**以下、ご購入いただきましたライセンスの中からご使用になりたいサービスを起動します。**

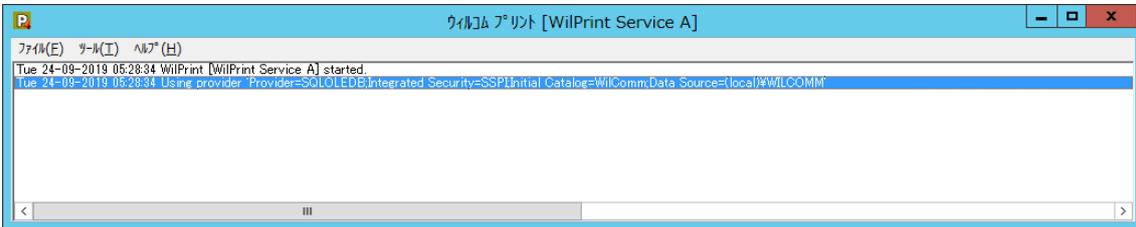
デスクトップにある WilComm フォルダを開き、WilMail  を起動します。



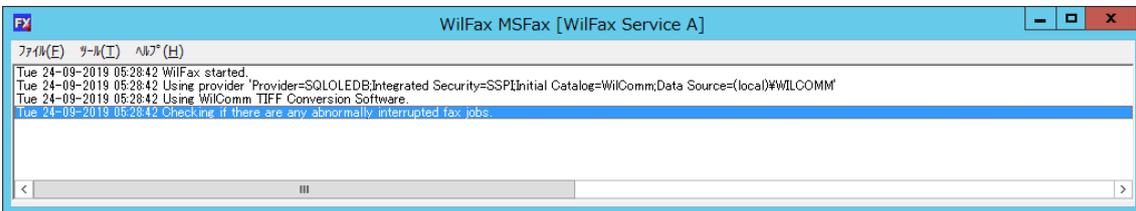
デスクトップにある WilComm フォルダを開き、WilFax  を起動します。



デスクトップにある WilComm フォルダを開き、WilPrint  を起動します。



デスクトップにある WilComm フォルダを開き、WilFile  を起動します。



WilComm 起動用のバッチファイルが提供されており、デスクトップに WilComm Start というショートカットがございますので、このショートカットを実行する事で、利用する WilComm アプリケーションをまとめて起動させる事ができます。

バッチファイルの内容は以下のようになっています。

※WilComm Start のショートカットを右クリックして編集を選択しますと、バッチの内容が表示されます。

1. Net use コマンドで、IBM i の WilComm 用共有フォルダー(/WILKINSON/SI)をネットワークドライブ(I:)にマップします。

※必要に応じて、ドライブ名や、IBM i の IP アドレスを変更してください。

```
Net use I: ¥¥192.168.0.1¥WILKINSON WILCOMM /user:192.168.0.1¥WILCOMM  
/persistent:no
```

2. Start コマンドで、WilComm のアプリケーションを起動しています。

※使用しない機能については、行の先頭に rem を挿入して、コメントとしてください。

ウィルコム の起動を自動化したい場合、デスクトップにある WilComm Start のショートカットを Windows のスタートアップフォルダーへコピーして頂くか、以下のフォルダーにある WilComm Start.bat をタスクに登録してください。

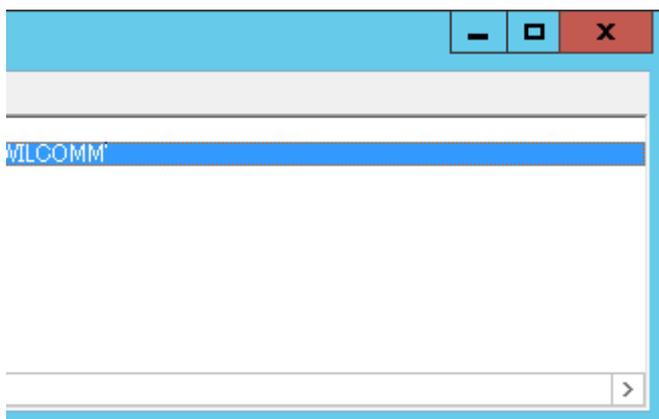
C:¥Program Files (x86)¥Pentana Solutions¥DocuSmart Suite¥Bin

※スタートアップフォルダーは、以下の手順で直接開く事ができます。

1. 画面左下のスタートボタンを右クリックして「ファイル名を指定して実行」を選択
2. 名前の欄に shell:startup と入力して OK ボタンをクリックします。

## PC Server のウィルコム停止方法

WilComm Server / WilMail / WilFax / WilPrint / WilFax どのサービスもウィンドウ右上の「×ボタン」で終了します。



或いは、タスクバーで右クリック→「閉じる」を選択してください。

